被害点検メモ

いつ・・・・・・

どこで・・・・・

どんな被害・・・

目撃情報・・・・
（足跡、糞、巣など）

想定される鳥獣・・・

そのほか・・・・

鳥獣被害の記録をお勧めします！
―被害の記録を残しておくとその後の対策の手がかりとなり、県や市町による指導が受けやすくなります（写真もあるとさらに良）。また各市町を通して実施する県の被害調査・対策の効果判定にも役立ちます。

問い合わせ先 ・・・・いつでもお気軽にご相談下さい

〒910-8580　福井県福井市大手3丁目17-1

農林水産部農林水産振興課（農産物被害）	農林水産部県産材活用課（森林被害）	安全環境部自然保護課（保護管理・有害捕獲）
TEL.0776-20-0417	TEL.0776-20-0698	TEL.0776-20-0306
Fax.0776-20-0649	Fax.0776-20-0654	Fax.0776-20-0635
e-mail:nousin@pref.fukui.lg.jp	e-mail:kensanzai@pref.fukui.lg.jp	e-mail:seizenho@pref.fukui.lg.jp

企画・発行　福井県
監　　修　江口祐輔（麻布大学）
制　　作　（社）農山漁村文化協会

健康長寿な福井です。

複製・転載する場合は必ず福井県ならびに制作者（農山漁村文化協会）の許諾を得て下さい。

できることからはじめましょう

鳥獣害対策マニュアル

点検ポイントと対策のヒント

福 井 県

はじめに

このマニュアルは、あなた自身が作るマニュアルの元となるものです。家でみるだけではなく、屋外で見て記録出来るように作りました。鳥獣被害だけでなく農地のまわりの様々な痕跡も記録し、情報交換に利用するなど、今後のあなた自身やあなたの住む地域のためにこのマニュアルを役立ててください。

福井県

目　次

できることからはじめましょう！・・・・・・・・・・・・・・3
集落がエサ場になっていませんか？・・・・・・・・・・・・4
いつ頃どんな被害が発生しますか？・・・・・・・・・・・・6
こんなサインに要注意！・・・・・・・・・・・・・・・・・・8

＜鳥獣別　いますぐ取り組める被害対策のヒント＞

イノシシ・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
サル・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
シカ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
ハクビシン・・・・・・・・・・・・・・・・16
アライグマ・・・・・・・・・・・・・・・・17
カラス・・・・・・・・・・・・・・・・・・18

参考文献・ホームページ

江口祐輔『イノシシから田畑を守る』／井上雅央『山の畑をサルから守る』／井上雅央・金森弘樹『山と田畑をシカから守る』／杉田昭栄『カラス　おもしろ生態とかしこい防ぎ方』以上農文協刊／森林総研鳥獣管理研（編著）『哺乳類による森林被害ウォッチング』林業科学技術振興所刊／江口祐輔・三浦慎悟・藤岡正博（編著）『鳥獣害対策の手引2002』日本植物防疫協会刊／兵庫県立人と自然の博物館ホームページ（http://hitohaku.jp/）

写真提供

奈良県果樹振興センター／島根県中山間地域研究センター／福井県／越前市／大野市／おおい町／高浜町／（社）福井県猟友会／江口祐輔／大井徹／赤松富仁／新井一仁

イラスト

トミタイチロー

柵の設置や有害捕獲だけでは鳥獣害は減らせません・・・

できることからはじめましょう！

個人対応 ＋（プラス） 集団の力で

情報交換

被害、足跡など目撃情報を共有し、集落ぐるみで取り組みましょう。また、困ったときは近隣集落にも協力をお願いしてみることも大切です。

共同作業

集落内点検、草刈、放置ゴミ対策など行い、鳥獣を近寄せないのが防除の基本です。集落全体を守る意識をもちつつ自分の畑を守ることは、集落全体のエサ場としての魅力を下げることにもつながります。

追い払う

鳥獣を見たらただちに追い払って、人間は怖いものと教えましょう。何もしないと鳥獣は人間を怖がらなくなります。かわいいからといって「餌付け」は絶対に行わないようにしましょう。

あきらめない

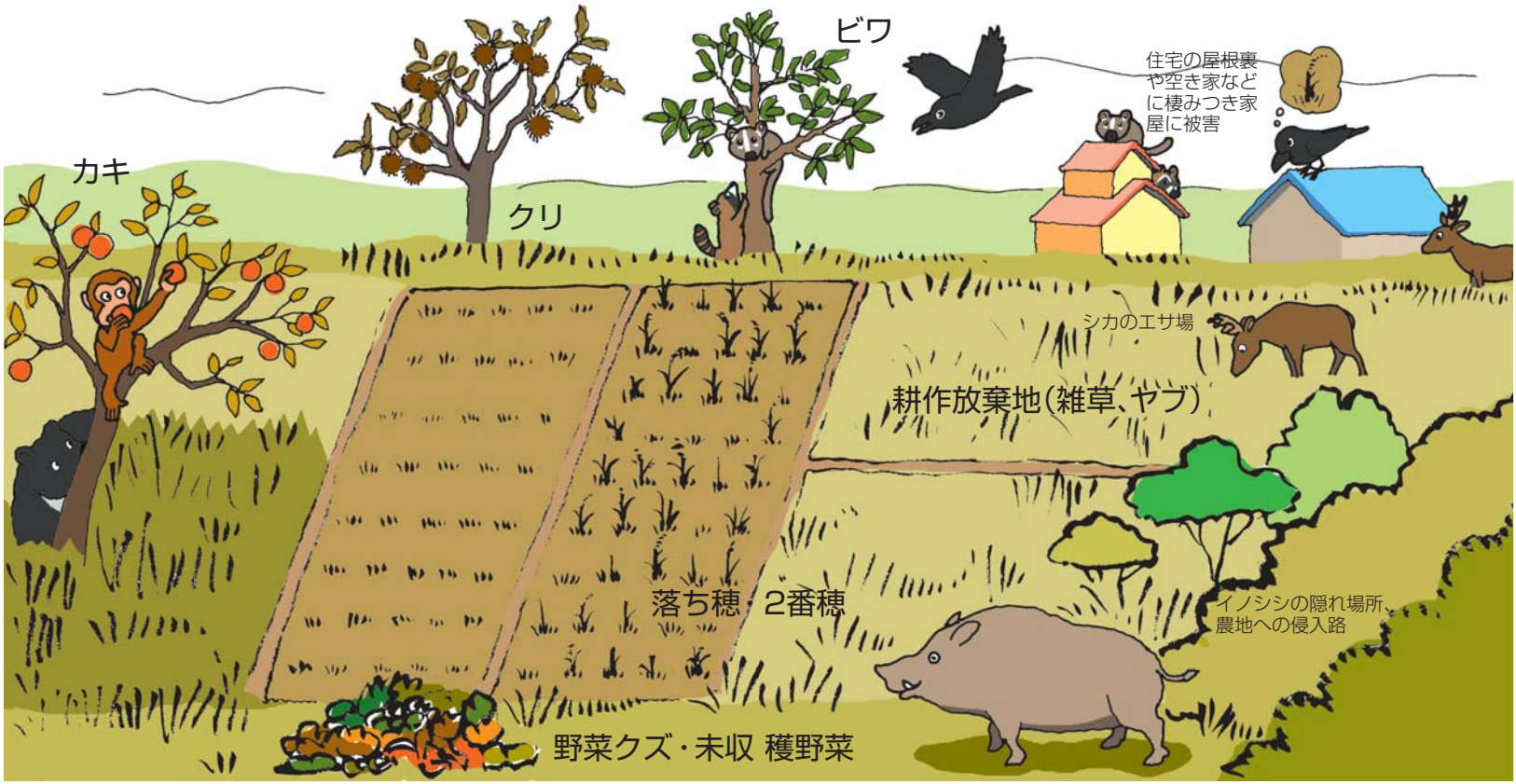
動物たちにとって一番怖いものは「人間」です。鳥獣はしつこくやってきます。完璧な防除でなくても、嫌がらせを組み合わせ、集落に定着しにくいようにしていくことが重要です。

鳥獣を引き寄せるさまざまな要因を点検してみましょう

集落がエサ場になっていませんか？

☑ 集落の周辺にエサとなる果樹を植えたままにしない

☑ 稲刈り後の水田はなるべく早く耕しておく（落ち穂や2番穂を出さない）



☑ 野菜クズや収穫物を残さない

☑ 耕作放棄地をつくらない（草刈りなどの管理を行う）

鳥獣被害点検カレンダー

いつ頃どんな被害が発生しますか？記録 してみてください

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
水田	イネ刈りあとの雑草（シカ）		畦畔の掘り起し（イノシシ）	直播（カラス）	苗の食害	踏み荒らし（シカ）	食い荒らし ヌタウチ・体こすり（イノシシ、シカ、サル）		遅れ穂（サル） イネモミ（カラス）		イネ刈りあとの雑草（シカ）	
転作		大麦 ※嶺南中心		出穂から収穫期の大麦（イノシシ）		播種後のダイズ（鳥類）		播種後のソバ（鳥類）			収穫期のダイズ、ソバ（イノシシ、シカ、サル）	
畑	収穫遅れの農作物			播種後のタネ（カラス）	自家畑の野菜全般					サツマイモなどイモ類		収穫遅れの農作物
果樹園		ミカンの枝・葉 ウメの枝・葉・雑草（シカ）						ナシ、クリ、ブドウ、カキなど収穫遅れの果実（鳥類、クマ、サル等）		ミカンの果実		
山・林			タケノコ（サル、イノシシ）	シイタケ（サル）	スギ、ヒノキの食害（シカ）						シイタケ（サル）	
	角とぎ・皮はぎ（シカ、クマ）											
集落	集落内にあるゴミ／生ゴミ堆肥／ドッグフード／ お供え物／放置された庭先果樹／ハチの巣（クマ）											

※上記の標準的な発生時期を参考に、あなた自身の農地について記録し、 被害対策の計画作りにお役立てください（発生時期や鳥獣の種類は地域によって多少異なります）

メモ

獣種別の特徴

こんなサインに要注意！

足跡

※足跡だけでは特定できないことが多いので、他の痕跡とあわせて総合的に判断してください。

クマ

指5本で大きい（幅約10ｃｍ）

イノシシ

4本指。前2本のみ跡が残ることが多い

シカ

4本指。跡が残るのは前2本

サル

親指が短く4本にみえることも

ハクビシン

指５本で短い

アライグマ

指５本で長い

タヌキ

指４本で犬に似ている

糞

ため糞する	ため糞しない				
タヌキ 糞粒の山になる	棒状	クマ 秋にはドングリの殻が混じる	イノシシ 粒状のものがひとかたまりに	サル エサにより色・形は異なる	
ハクビシン エサにより色・形は異なる	粒状	シカ 俵型が多い	不定形	アライグマ エサにより色・形は異なる	注意！ イラストで示した糞はあくまで典型例です。エサや乾燥状態によって形状は異なってきます

被害のようす

サルによる食害。キャベツは丸かじりする

アライグマによる食害。手で果肉をほじくりだして食べる

シカの食痕。はさんで引きちぎるように食べる

ハクビシンによる食害。ブドウの袋を破いて食べる

イノシシによるヌタウチ

クマ剥ぎの被害

まぎらわしい中型動物の特徴

ハクビシン

額から鼻にかけて白い線があり、頬も白い。尾は40cm前後と長い

アライグマ

白くて長いヒゲ、尻尾のシマ模様が特徴

タヌキ

顔はアライグマに似ているが、尻尾がフサフサとして太い

イノシシ

被害が減らない理由

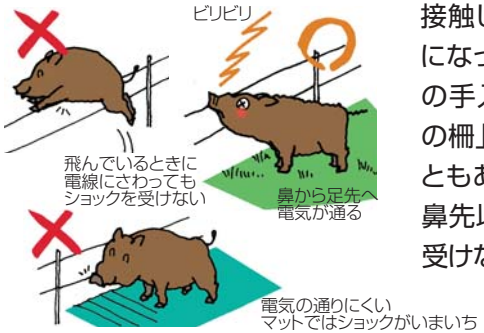
「柵をつくれば安心」は大間違い

集落全体で徹底的に「嫌がらせ」を

野菜クズ、生ごみ、落下果樹、お供え物などの放置は餌付けと同じ。即回収するなどの処置をします。また耕作放棄地や田畑周辺の山際部分のヤブを刈り払って見通しをよくし、隠れ場所をなくすなど、イノシシが嫌がる環境をつくるのが防除の第一歩です。自分の田畑は自分で守ると同時に、集落で歩調を合わせて田畑を守ることによって、イノシシはさらに集落へ近づきにくくなります。

「電気柵」手入れがなければ「ただの柵」

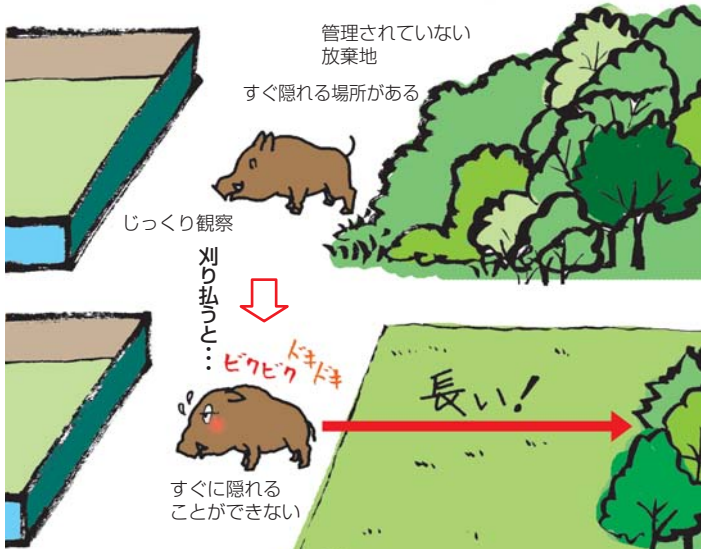
トタンや金網、電気柵で囲うのは重要な対策。しかし安心はできません。わずかな隙間でもあればおいしい「エサ」を発見。くぐり抜ける、跳び越えるなど高い運動能力を駆使して突破してきます。とくに、お金をかけた電気柵は過信のもと。電線に雑草が接触していると漏電状態になってしまうので、下草の手入れを怠れば「ただの柵」と変わらなくなることもあります。イノシシは鼻先以外、電気ショックを受けないことも忘れずに。



電気柵も過信は禁物

対策

刈り払いで「隠れ場所」をなくす



イノシシが丸見えになるようヤブを刈り払い、隠れ場所をなくす

現場の工夫―「放牧」でイノシシ防除

放飼直後

2ヵ月後

（写真提供：千田雅之）

放棄地などにウシを放して草を食べてもらう（1haに1頭）。農地を保全管理し、景観を保ち、イノシシが寄りつきにくい環境をつくる、一石三鳥の方法。

（H18実施地区:敦賀市長谷、美浜町興道寺・同町新庄、若狭町下吉田）

サル

被害が減らない理由

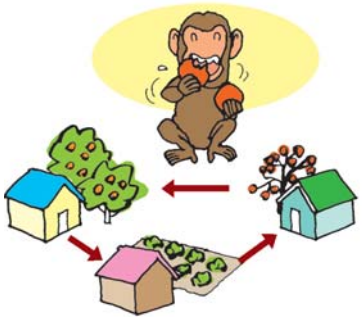
「餌付け集落」は魅力的なエサ場

集落をサルのエサ場にしない

集落全体でエサがなくなれば、サルはやって来ません。しかし気づかないところにサルのエサがあることを知っておきましょう。お供え物、田んぼの遅れ穂、節分の豆、すてられたほだ木から出たシイタケ、放棄された竹やぶのタケノコ、ゴミすて場の生ゴミなど。大がかりな柵など設置する前に、集落を点検し、エサ場としての魅力を下げるよう見直すのが防除の第一歩です。

サルの苦手な畑をつくる

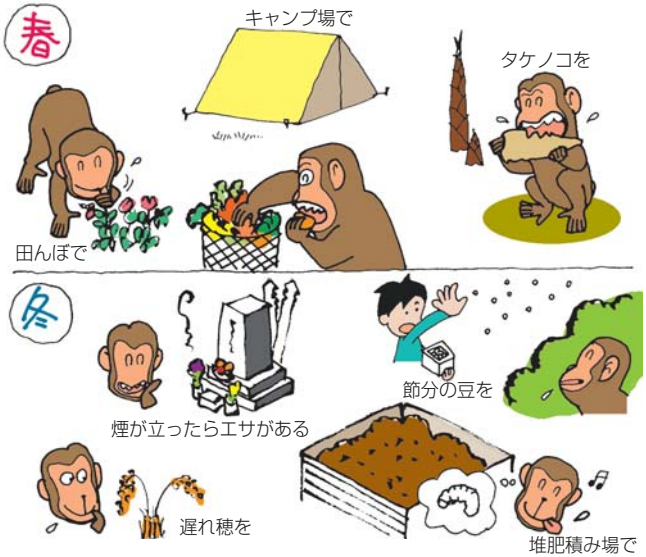
図々しいようでも、サルは人前に身をさらすのは苦手。畑の周囲のヤブを刈り払う、廃小屋など余計な構造物を取り除く、というように見通しをよくすることで畑へ来にくくなります。いつも被害を受けるところにはコンニャク、トウガラシ、シソなど、サルが好まない作物を植えていく。こうした小さな嫌がらせの積み重ねをするだけでもサルは集落に来にくくなります。



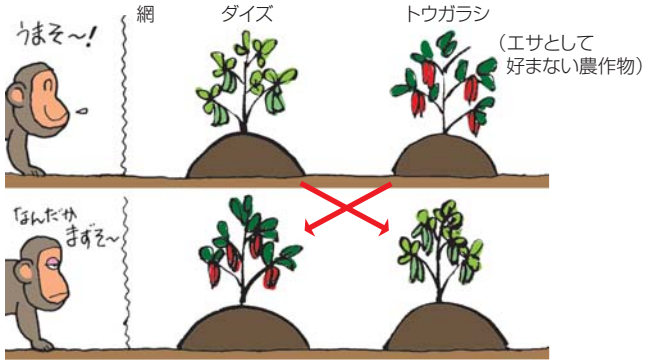
畑でも庭先でも味をしめた「エサ場」には何度でも現れる

対策

知らずに行っている「餌付け」をやめる



食べていても農家が追ってこないので安心できるエサの数々



植えるウネの位置を変えるだけでエサ場としての価値はものすごく違う

シカ

被害が減らない理由

「集落近くの豊富な雑草」が貴重なエサに

雪の少ない場所を求めて移動する

シカは雪に弱い動物です。積雪はエサとなる草を覆い隠し、細く長い脚は雪を踏み固めながら歩くには適していないため、雪の少ない場所を求めて移動します。およそ50cmの積雪が10日ほど続くかどうかが生息の境界線。近年の暖冬化によってシカの分布域が拡大したともいわれています。

シカを増やすかどうかは雑草管理で決まる

エサのない冬、シカは集落周辺の雑草を荒します。越冬のための体力を蓄える晩秋から厳冬期にエサが豊富だとシカが多く生き残り、それらの個体が次々と出産を重ね、さらに頭数が増えるということにもなりかねません。獣害対策を行ううえで集落や耕作地周辺の雑草管理は大切なことですが、草刈時期によっては、野山にエサのない時期に、シカのエサとなる青草を増やしてしまいます。

秋の一時期に草刈をすると、翌年の1～2月に集落へシカを引き寄せる原因となるので、なるべく行わないようにしましょう。

シカはウシと同じ反芻動物。路肩などの雑草を目当てに集落に現れ、農作物をついでに食べる

対策

「秋の草刈」をやめる

	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
シカのエサ	野山にエサとなる草が多い					エサが一番少ない	
シカを寄せ付ける草刈り ×			草刈りすると…			柔らかい草が茂ります	
シカを寄せ付けない草刈り ○	草刈り		秋の草刈りひと休み 冬枯れ(※)			エサとなる青草がない	

※イノシシの被害が多発する地域では状況に応じて草刈が必要なこともあります

シカやクマによる林業被害を防ぐために

テープ巻き

ネット巻き

成長した木の幹に樹皮を保護する資材を巻きつけ、シカの「角とぎ」による皮剥ぎや剥いだ皮を食べる食害、クマがスギ・ヒノキの皮を根元から剥ぐ「クマ剥ぎ」を防止します。

ハクビシン

被害が減らない理由
防鳥網程度のものなら平気で食い破る

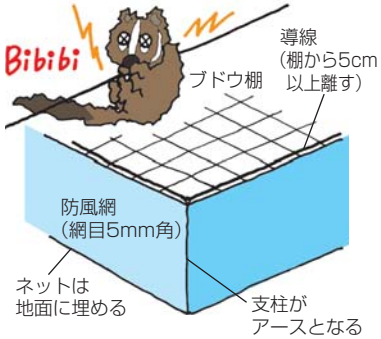
果実を中心に雑食の樹上生活者

木登りが得意で、ネットやポールはおろか一本の針金を登って渡ることができます。また、高さ1m、幅1.2mくらいはジャンプして乗り越える能力を持っています。果実食中心ですが昆虫類、ミミズ、小魚、トカゲ、ネズミなども食べる雑食性です。

対策

電気柵を工夫して使う

木登りがうまく、バランス感覚が発達しているので、低い侵入防止柵やネット柵ではあまり効果がなく、防鳥網くらいでは食い破られてしまいます。臭い・音・光での対策も効果は一時的です。もっとも効果が期待できるのが電気柵。下図のブドウ棚上電気柵は、防鳥網より強度の高い防風ネットを用い、ネットを登ってくるハクビシンに対して、棚の上で電気ショックを与えて侵入を防止するものです。また、侵入路になる地際にも電気柵を設置するのも有効です。ただし、雑草やブドウの新梢が伸長してきて導線に触れると漏電するので、こまめな管理を行いましょう。



棚上電気柵の設置方法
(資料提供・新井一仁)

アライグマ

被害が減らない理由
かわいい姿が人を欺(あざむ)く

人慣れするが獰猛な性格

ペットとして輸入されたため人に慣れることもある反面、爪と歯が鋭く、家畜や人間を攻撃することもあるので注意しなければなりません。人獣共通感染症であるアライグマ回虫症にも注意を要します。天敵はなく、放っておくと急激に増える恐れがあります。

対策

餌付けは禁物

トウモロコシは手で持ち、
芯だけ残して実を全て食べる

見た目に可愛いくとも、絶対にエサを与えないようにします。廃棄する作物を野積みしておくのも餌付けと同じ。放置しないようにしましょう。

かごワナでの捕獲が有効

本来日本に生息していなかった動物です。個体数が増えないよう積極的に捕獲しましょう。大型の金網で作ったかごワナで容易に捕獲できるので、多数のワナを設置し、徹底した駆除を行います。なお、捕獲する際は許可が必要なので、市町の指示に従って下さい。

増えるとやっかいな外来生物。
かごワナで積極的に捕獲する

カラス

被害が減らない理由

「撃退グッズ」も慣れてしまえばみな同じ

かしこい、しぶとい、何でも食べる

カラスはもともと人間の営みにつかず離れず生きてきた鳥。人のそばで生き抜くかしこさを備えているのはご存知のとおりです。エサへのこだわりがなく何でも食べるので、農家の屋敷まわりや集落はエサの宝庫。知らず知らずに行っている無意識の餌付けをカラスの目線でチェックする必要があります。

あきらめずカラスの「慣れ」を防ぐ

防鳥テープや爆音器、カラスの死体や模型、黒ビニールなどなど、カラスを追いやるさまざまな方法が試されてきました。一時的には効果を発揮するものは多いのですが、時間とともにその効果はうすれていきます。その「慣れ」を防ぐのが、カラス防除の大きなポイントです。複合的に組み合わせる、効かなくなったら片付けて、いつまでも放置しないなど。「カラスにとって一番怖いのが人間」であることが大切です。

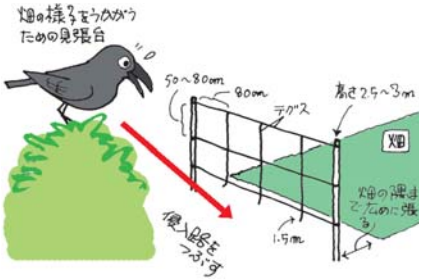
撃退グッズも使いよう。いくつか組み合わせて慣れを防ぐ。効かなくなったものは別のグッズに取り替える

対策

かしこさゆえに持つ「警戒心」を利用する

テグスで防ぐ

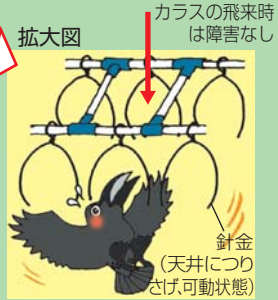
カラス防除にはテグスなど物理的手段が有効です。カラスは畑を狙う際、様子を伺う見張り台のようなところにいったん止まり、安全かどうか、まわりのようすを確認してから侵入します。そこで、その侵入路をつぶすようにテグスを張る、畑の隅まで広めに張る、といった工夫も効果的です。畑全面をテグスで覆わなくてもしばらくの間カラスは恐怖感をもつようになります。



侵入路は決まっているのでまずそこをつぶす

被害がひどいとき―捕獲の工夫

カラスの捕獲檻の設置例（大野市 北御門地区）



逃げようとしても針金が障害となる

※主に捕獲する対象は群れをつくって行動する若いカラス